

●総評

四月から選に参加することになりました。普段短歌を作っているせいか、型はなくても言葉がおのずからつくりだす呼吸やリズムのある作品に惹かれました。これからどうぞよろしくお願いします。

●選評

・降旗 沃（東京都）

枯れ茎は

いらぬい いらぬい

名前はいらぬい

樹の名前、花の名前、草の名前。名前は錘となってみずからをこの世界に押しとどめる。名前のない枯れ茎のからだのすずしい揺れかた。

・白野（新潟県）

木の幹をゆっくり剥いでいくよう

にしずかな時間です 走馬灯

死ぬときに、こんなにもあたたかい手触りの時間が来るのなら。

・まちりこ（埼玉県）

おしころす わ

いてくる

くちにする な

けてくる

あらわれる

それぞれの言葉のあたまたたとえば「こころを」と置いてみる。意味をひびきが、理性を感情が、言葉をこころが追い越してゆく。

・まちりこ（埼玉県）

大学の裏門が好きだったな

気取ってなくて

半透明な瓶の中にいるみたいで

表門より裏門の、透明より半透明の詩。

・藤色（京都府）

ストローの反対側でまってるね

溶けた氷で薄まる日差し

触れ合うほどの近さは、果てのように遠い。向こうとこちらの距離がきらめく。

・まちりこ（埼玉県）

XYZのあとの春の海

おしまい、のそのあとの海は広がりやまない。

・サトリ（東京都）

百円玉九枚

押し込む財布

感情のコカ・コーラ

感情のためのコカ・コーラは百円。安くて、あまくて、からい炭酸がからだを駆け巡る。

・降旗 沃（東京都）

葉が落ち樹形を露わにするように

寒さに耐えているとき

人は正体を見せる

樹形が木の正体ならば、人の正体とは。落ちてゆく葉はこころなのか、からだなのか、あるいは。

・まちりこ（埼玉県）

レシートの長さに

目眩する夜明け

朝がみるみる大きくなるよ

買ったもの、食べたもの。レシートは私そのもの。朝は私を断ち切ってくれたのだろうか。

・春町 美月（大阪府）

モッコウバラの重みに耐えかねて

死んだおじさんが作った

アーチ

最後の春

おじさんを、おじさんの時間を、終わらせるためのこの春のモッコウバラ。